

# 令和5年度

## 全国学力・学習状況調査の結果と 学力向上の充実に向けて

清水町教育委員会

### ～全体的な傾向～

令和5年4月に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果、教科に関する調査の平均正答率は、小学校では国語・算数が全国・全道平均を下回りました。中学校では国語において全国平均は下回ったものの全道平均とは同率でした。数学・英語においては、全道・全国平均を上回りました。

学習状況調査における児童生徒質問紙で、小学校においては、規範意識や自己有用感について高い傾向が見られる一方、生活習慣・学習習慣について低い回答傾向が見られました。また、中学校においては、生活・学習習慣が定着し、数学や英語の関心についてなど全体的に基準よりも高い回答傾向が見られました。

小学校、中学校ともに普段の勉強からタブレットやスマートフォンなどのICT機器を活用して勉強を行っている傾向が見られました。

清水町では”しみず「教育の四季」”を実践指標として、学校、家庭、地域が絡ぐるみで心をかよわせ感性豊かな教育に取り組んでいますが、調査結果で明らかになった課題を踏まえ、今後も各学校、家庭、地域において、子どもたちの学力向上のための効果的な取り組みを意欲的に充実させていくことが大切だと考えています。

### 学力 とは

基礎的な知識や技能を習得して、課題を解決するための思考力や判断力、表現力などの能力とともに、学ぶ意欲なども含めたものです。

### 三つの柱

生きて働く「知識及び技能」

未知の状況にも対応できる  
「思考力・判断力・表現力等」

学びを人生や社会に生かそうとする  
「学びに向かう力、人間性等」

本調査は、「三つの柱は相互に関係しながら形成されるもの」という考え方のもと、一体的に調査問題を構成したものとなっており、実生活に必要な知識・技能や活用する力等の状況を把握するものです。

また、教科に関する調査のほかに、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面などを質問紙調査で聞きました。

### 令和5年度 全国学力・学習状況調査

#### 【目的】

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 【調査対象】

○小学校6年生、中学校3年生（清水町は全小・中学校全4校で実施）

#### 【実施日】 令和5年4月18日（火）

#### 【調査事項及び手法】

- 教科に関する調査 国語、算数・数学、英語の3教科（小学校は国語・算数の2教科のみ）
- 質問紙調査 生活習慣や学習環境等に関する調査

## 小学校 6 年生 調査結果概要

### 教科に関する調査の結果

平均正答率は、国語・算数において、全国平均を下回りました。

#### ◆ 小学校 6 年生調査問題の趣旨・内容

##### □ 国語

- 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかを見る問題
- 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題など

##### □ 算数

- 示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかを判断できるかどうかをみる問題など

#### ○ 町内小学校 6 年生の学力の傾向

国語・算数において、全国・全道を下回る平均正答率であり、課題が見られます。また、2 教科とも記述式問題の平均正答率・無回答率が高くなっている傾向があります。

#### ○ 課題と対応

国語において、漢字を正しく使うこと、問題の内容を捉え、それに基づいて自分の考えをまとめることに課題があると言えます。

算数については、図形の特徴について考えて記述することや、示されたグラフを読み解き分かったことを記述することに課題があると言えます。

基礎的な知識・技能の学びを学校での学習だけでなく家庭学習においても日常的に深めていくこと、得た学びから考えたことを自分の言葉でまとめることを意識させる必要があります。

## 中学校 3 年生 調査結果概要

### 教科に関する調査の結果

平均正答率は、数学・英語において、全国平均を上回りました。

#### ◆ 中学校 3 学年調査問題の趣旨・内容

##### □ 国語

- 聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題など

##### □ 数学

- 結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見出し、説明することができるかどうかをみる問題など

##### □ 英語

- 日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる問題など

#### ○ 町内中学校 3 年生の学力の傾向

数学、英語の 2 教科において、全国を上回る平均正答率であり、基礎的な知識・技能及びそれらを活用する思考力・判断力・表現力等が一定程度身につけていると言えます。

また、全教科の記述式問題で無回答率が高くなっている傾向があります。

#### ○ 課題と対応

国語において、文章を読んで構成や表現を理解して考えることに課題があるといえます。

数学において、その事柄が成り立つ理由を説明することに課題があるといえます。

家庭学習に取り組む中で、文章の意味を理解しながら読むことや物事を論理的に考えることを意識しながら取り組むことが必要です。

～調査結果から次のような指導改善の視点が明らかになりました～

## ◎小学校

### 国語

◇言葉の特徴や使い方などに着目して、文や文章を整える。

漢字を文の中で正しく使うことができるように指導することが大切です。その際、短時間でも継続的に指導したり、読みやすい文章にしたりすることを意識し、推敲する必要性を感じることができるようにすることが重要です。敬語を使う場合、尊敬語や謙譲語などの役割や必要性自覚し、相手や場面に応じて適切に使うことが大切です。  
ICT 機器等も活用し、普段の授業から働きかけることが大切です。

◇目的や意図に応じて、話の内容を捉え、自分の考えをまとめる。

必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることが大切です。ペアワークやグループワークの中で、対話的な学びの機会を作り出していくことが必要です。  
また、情報の関係を様々な方法で整理することで、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりできることを実感できるように指導することが大切です。

#### ★各家庭での実践

本や新聞などの文章を読み、自分の考えをまとめ、タブレット等を用いて友人などと共有して、良いところやもっと工夫できるところを伝え合うことが大切です。

### 算数

◇日常生活の問題を解決するために、目的に応じて、データの特徴や傾向を捉える。

複数のグラフを組み合わせたグラフを読み取る力を身に付けさせるとともに、特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを、グラフのどの部分からそのように考えたのかを明らかにして、他者に分かるように伝えることができるように指導することが大切です。表やグラフから必要な数や条件に合う数を読み取るができるように指導することが大切です。

◇日常の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理する。

日常生活の問題を解決するために、場面を解釈して数量の関係を捉え、問題の解決方法を式や言葉を用いて説明できるように指導することが重要です。  
算数の学習では、日常生活の事象を数理的に捉え、式に表現して処理したり、計算に関して成り立つ性質を活用して、計算を工夫したりすることも重要です。そのために、例えば、日常生活の場面を式に表したり、式を場面と関連付けて読み取ったりすることを通して、問題の解決に式を用いることができるようにすることが大切です。

#### ★各家庭での実践

家庭での買い物や料理など日常生活の中で、身近にある数量に目を向けて概数の計算や割合の変化を捉えられるように、保護者が児童に対して、積極的に問いかけて考えさせることも大切です。

## ◎中学校

### 国語

◇目的に応じて複数の文章を読むときの、比較・効果について考える。

文章を読んで自分の考えを広げたり深めたりするためには、文章の内容を理解するだけでなく、自分も持っている知識や経験と結び付けることによって、理解したことや考えたことをより具体的で明確なものにしていくことが重要です。  
また、文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉え、要旨を把握することができるように指導することも重要です。

◇情報について、情報と情報との関係について理解する。

「原因と結果」、「意見と根拠」、「具体と抽象」などの基本的な情報と情報との関係について理解し、実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面で活用できるように指導することが大切です。  
その際、2つの情報の結び付きを的確に捉えることができるように指導することが大切です。

#### ★各家庭での実践

・日頃から新聞や本などを読むことによって、文章の構成や引用の仕方を学んだり、心情を表す言葉や情景を表す言葉など、より多くの言葉を学んだりすることが大切です。  
ただ、読むだけでなく、読み解いて理解を深める中で自分の考えをまとめられるようにしていくことが重要です。

### 数学

◇筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる。

図形の性質を考察する場面では、予想した事柄について成り立つ理由を筋道を立てて考えたり、問題解決の過程を振り返って本質的な条件を見いだしたりすることが大切です。またある事柄の条件を変えた場合について考察する場面では、証明を振り返り、証明に用いた前提や根拠を整理するなどして、図形の性質を論理的に考察し表現することができるようにすることが大切です。  
ICT 機器等を用いることで、より様々な視点から図形を観察し、その性質や関係を理論的に考察し表現することができます。他者の意見を共有していくことでより多面的に物事を捉えることができ、対話的な学びの中から自分の考えをまとめていくことが大切です。

◇問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。

結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つことを見いだし、説明することが大切です。また、新たに成り立ちそうな事柄を予想する活動を取り入れることも重要です。具体的な場面で表したり処理したり、活用できるようになることも大切です。

#### ★各家庭での実践

・家庭学習の中で、理論的に問題を考察し、自分の言葉で説明できるように取り組むことや ICT 機器等を使って他者と色々な考えを共有し理解を深めることが大切です。

## 英語

◇文法事項や言語の働きなどを理解して正確に書くことができるかどうか。また、日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうか。

読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解したことを基に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて適切に表現することが重要です。指導に当たっては、読む目的に応じて要点を捉えた上で、内容に対する感想や賛否、自分の考えなどを話したり書いたりして表現するなど、領域を統合した言語活動を行うことが大切です。

◇正確に、そして必要な情報を聞き取ることができるかどうか。

自分の置かれた状況を把握し何を聞き取るか理解した上で、それらに関連する語句や表現に着目して必要な情報を聞き取ることができるように指導することが重要です。  
また、社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるように指導することも大切です。

### ★各家庭での実践

・日常生活の中で、家庭学習においてICT機器を活用して英語の音声に慣れ親しむことが大切です。外国の文化なども音楽や動画などから興味・関心をもって触れるうちに理解していくことも重要です。

## 質問紙調査の結果

小学生は、自己有用感が全国・全道平均とほぼ同値でしたが、生活習慣、国語への関心が特に全国平均を下回りました。  
中学生は生活習慣・学習習慣、数学・英語への関心などの項目で全国平均を上回りました。

### ◇質問紙調査の趣旨・内容

学力の状況のみならず、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する質問紙調査を実施し、学力と相関関係等を分析します。学力との相関については、①学習に対する興味・関心②規範意識・自己有用感③学習の基盤となる生活・学習習慣について調査が行われました。

### 町内の児童生徒の学習習慣や生活習慣等の傾向

小学校6学年児童では、全国基準と比べて、「友達関係に満足している」「外国の人と友達になったり、外国のことをもっと知ったりしたい」について高い傾向にありました。

中学校3学年生徒では、全国基準と比べて、「将来の夢や目標を持っている」「家で自分で計画を立てて勉強している」「毎日同じ時刻に寝ている」などについて高い傾向にありました。

## 改善の方向性

○「三つの柱」を育成していくことを重視し、確かな学力を確立するための学習活動を充実させましょう。

～知識・技能の確実な定着を図る指導の工夫改善に努めましょう～

- ・基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるため、体験的な理解を重視した学習活動や、「まとめ」「振り返り」など学びをフィードバックさせる学習指導の工夫改善を図る。
- ・一人一人の習熟度等に応じたきめ細かな指導を一層充実させる。

～思考力、判断力、表現力等を高める指導を充実し、実際に課題を探究する活動の実践に努めましょう～

- ・観察・実験、レポートの作成、論述などの学習活動を発達段階に応じて充実させ、自分の考えを持ち、伝わりやすい言葉で文章を作る能力を向上させる。

○「主体的・対話的で深い学び」から学習意欲の向上につながる指導の工夫改善に努めましょう。

- ・児童生徒の学習意欲を高める「分かる授業」「自ら考える授業」の実践研究を推進し、児童生徒の自立性を促すことができるよう教師の授業力を高める。
- ・タブレット等のICT機器を活用し、児童生徒一人ひとりの学習場面が多様なものとなるように指導方法の充実を図る。
- ・地域の人材や加配教員による少人数指導、チーム・ティーチングや習熟度別指導など多様な指導によって児童生徒の学びを充実させる。

○家庭・学校・地域が相互に連携し、学習習慣や基本的な生活習慣の育成を図るための活動を充実させましょう。

- ・家庭においても日常生活の事象や体験から学びへと結びつけられるように疑問に対する興味関心を育てていく。
- ・子どもが自発的に学習を行えるように支援したり、規則正しい生活リズムの中で学習時間を確保したりなど、各家庭が意識をもって取り組む。

○読書に対する意欲を高め、読書活動を活発にする取組の一層の充実を図りましょう。

- ・全校一斉の読書活動、学校図書館の活用を通じて、文章の読解力を向上させる。
- ・毎月19日の「しみず読書の日」を意識して、読書の習慣化を図る。

## 清水町教育研究所との連携

調査の結果を受けて、清水町教育研究所では十勝教育研究所と連携し、教育課程や授業の工夫改善、家庭学習の推進に取り組んでいます。研究所の研究成果を参考に、各学校において日頃より実践研究に取り組むなど連携を図りながら、児童生徒の確かな学力の育成に努めます。